

ボクシング進化論

The Evolution of the BOXING

1K03B037-4

岡島宏樹

指導教員 主査 小野沢弘史 先生 副査 内田直 先生

ボクシングは両腕だけの攻撃のみが許された非常にシンプルで、最も洗練された格闘技である。現在、ボクシングの基本技術となっているジャブ、ストレート、フック、アッパーカット、コンビネーション、カウンター、フェイント、ガード、パッシング、フットワーク、ボディワークなどが、昔のボクサーから現代のボクサーへどのような進化を経て受け継がれてきたのか。ベアナックル・ファイト（素手の戦い）でルール無し、何でもありの野蛮な格闘技から、現行のグローブを着けて戦うクインズベリー・ルールに移行して 100 年以上が経った。その間にボクシングの技術は近代化し、さらに現代化し科学化してきた。

これと同時にプロボクシングとアマチュアボクシングの差別化が図られてきた。かつて、古の時代は両方とも全く同じもので、徐々に分岐し始めた 100 年前でさえも、その境目は曖昧であった。しかし現在、プロとアマチュアはグローブ、ヘッドギア、ユニフォーム、ルール、試合時間、ラウンド数、採点方法など、違いを挙げようとすれば切が無い。この二つの競技は名前こそボクシングと同じだが、プロボクシングは野蛮な格闘技の面を強く残し、アマチュアボクシングはスポーツ性・競技性を高めたものにそれぞれ進化した。中身は全く異なるものであると言っても過言ではない。それゆえ試合で使われるテクニックなども、異なる方向に進化していった。

ボクシングは間違いなく進化してきた。だが手に汗握り叫び声を上げて応援する観客たちが知りたいのは、いつの時代も“誰が一番強いのか？”である。時の流れは止めることができず、残酷なもので、一時代を築き、最強と呼ばれたチャンピオンも、いつかは必ず若いチャレンジャーたちに敗れ去り、時の流れに埋もれてしまい観客たちの記憶の片隅に追いやられる運命にある。しかし一時代を築き上げたチャンピオンたちのボクシングスタイルは、後世のボクサーたちに正しいかどうか、強いかどうか選択され、力があるものなら使い込まれ、現代ボクシング技術の一部に組み込ま

れたり、全く新しいボクシングスタイルを生み出す原動力となったりするだろう。何時の時代も失敗を恐れない勇気ある先人たちによって、新しいものは生み出されていくものだ。

現在、ボクシングのスタイルは出尽くしたと言われている。インファイター、アウトボクサー、ボクサーファイター、カウンターボクサー、ジャバー、フッカー、ストレートパンチャー、コンビネーションパンチャー、ピーカブー、トリッキー、サウスポー、コンバーテッドサウスポー。ボクシングの進化の中で様々なスタイルが生まれたが“どれが最も強いのか？”を私は知りたいと思いこの論文を書いたのである。

この問いに対し私は、ボクシングの歴史、現役チャンピオンのボクシングスタイル、ルールの分析とそれに適したスタイルを調べることで、答えを導き出そうと考えた。

ボクシングの歴史を調べることで数々のルールがどのように成立してきたのか、同時にボクシングがどのように洗練されてきたのかを知る事ができた。この過程は歴代チャンピオンの努力の結晶に負う所が大きく、現在の基本技術の真髄がそこにはあった。

つぎに現役チャンピオンのボクシングスタイルを調べた。彼らは今あるボクシングの基本技術を更に前に進めようともがいているのである。いわばボクシングの進化の最前線である。

最後にルールとボクシングスタイルの関係を調べた。規制された枠の中で最大限の力を発揮できるスタイルとはどれなのか。

そして一つの答えに辿り着いた。コンバーテッドサウスポースタイルである。これこそ現在のアマチュアボクシングに最も適したスタイルであると私は考えている。